

からだのしくみ ナースの視点

著：杉崎紀子
絵：神崎史
A5判・184ページ
定価：本体2,200円＋税
発行：朝倉書店（03-3260-7631）



学生の学び直しとして大いに優れた参考書

評者◎小池妙子 弘前医療福祉大学保健学部長

著者は看護師の資格を有しているが、保健学博士として当時では異色の「生化学」の授業を、看護基礎教育（大学、専門学校）で長年、教授してこられた。その経験と学生に対する熱い思いが結実し、看護学生のための学習書として本書が出版された。著者とは看護教員時代から30年来の交遊をいただいているが、学問に対して探求心が強く、何事にも真摯に向き合う姿勢に学ぶところが多く、尊敬している。

今回、本書に目を通して素晴らしいと感じたのは、1項目ずつすべて見開きになっていて、左ページに解説文、右ページに解説に合わせたイラストがカラーで描かれているところである。専門書としては今まで目に触れたことのない新鮮な構成である。複雑な内容を、学生の目線に立ち理解が深まるように平易な文体で簡潔に、しかも、重要項目をゴシック体や赤字で表示している。解説文のみでも理解はできるものの、イメージした内容を確認するためにイラストを眺めると「ああ～そういうことなのか」「自分の身体内部の状態を確認できる！」と、学生でなくともわくわくする。

本書は三部構成で、第一部は基礎編「生きているしくみ」、第二部は実践編「病気によるしくみの変化」、第三部は付録編「苦手な生化学」である。内容を紹介しよう。「基礎編」では呼吸、心臓、消化・吸収など、人が生きるためのしくみを機能的にまとめている。「実践編」では、自覚症状や検査でわかる変化などを、バイタルサインのみでなく動脈硬化や高血圧、心臓病、糖尿病、肝臓病がな

ぜ起きるのか、体内でどのような変化が起きているのかを、著者の博識と豊かな経験を感じさせる筆力で具体的に説明している。

付録編を読むと、生化学を好きになること間違いなしである。冒頭に、「石油や石炭などの燃料を使用すると二酸化炭素が発生する。同様に人間の体のしくみ、つまり、糖質、脂質、たんぱく質は炭素と水素を多く含み、酸素（吸気）と結合するとエネルギー（ATP）を生じる」と例示している。そして、この代謝経路を、看護に必要な人間の生活機能の視点（食事・排泄・呼吸・活動）に絞り説明しているのである。

また看護に必要なアセスメントで、「血液の成分が体内でどのような働きをして役に立つか」の説明では、「血液の構成物質はもとより、吸収、排泄、代謝によって生じた物質、病気によって増減している物質が同時に血液に含まれる。これらの物質が生化学検査によって数値が表示される」と記し、「大事なことは検査値の変化がなぜ起きているか病理学の知識と重ねて身体の状態を把握することは身体内部の変化を反映する重要な手掛かりである」と述べている。

本書は看護学生が臨地実習で知識を再確認し、国家試験のための学び直しとして大いに参考になるはずであり、自信をもって推奨する。さらに、「からだのしくみ」を復習・理解する機会として看護師、教育者、一般の方々にも、ぜひ読んでいただきたい書籍である。